

東大和市における部活動地域移行に向けた取組について

目的

学校の部活動では支えきれなくなっている中学生のスポーツ、文化芸術環境について、今後学校単位から地域単位での活動に変えていくことにより、少子化の中でも将来にわたり、生徒たちがスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していくことが重要です。また、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上につなげることも喫緊の課題です。そこで本市では、子どもから高齢者までの誰もが、性差、障害の有無等を超えた生涯スポーツ・文化芸術活動の実現を目指すためのモデル事業を推進していきます。

1 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要（令和4年6月6日スポーツ庁地域スポーツ課）

【意義】

- ・生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- ・人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

【課題】

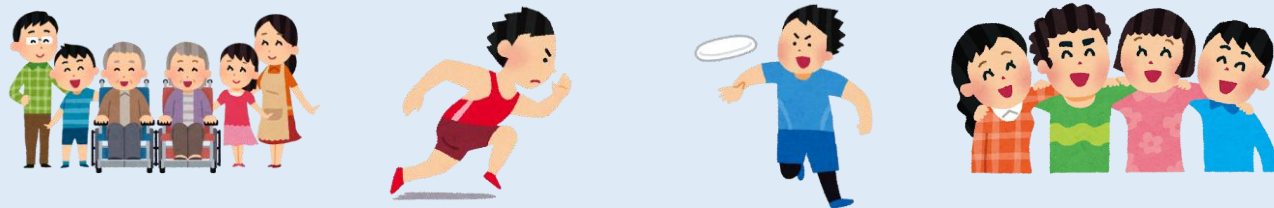
- ・近年、特に持続可能性という面で厳しさを増加しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行。
- ・競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担。
- ・地域では、スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない。



2 東大和市における改革の方向性の取組

【目指す姿、学校単位から地域単位の取組へ】

- ・休日の運動部・文化部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする。令和5年度は2部、令和6年度は3部。
- ・平日の運動部活動の地域移行は、地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証し、さらなる改革を推進していく。
- ・地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも着実に取り組む。
- ・地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進。
- ・今後は、対象を中学生だけでなく、小学生高学年から保護者・市民等とし市全体として性差、障害の有無等を超えた生涯スポーツの実現を目指していく。



3 東大和市における具体的な取組

- ・令和5年度より、アルティメットクラブ・バドミントンクラブ（バドチャレ部門）発足。
- ・東大和市アルティメットクラブの対象者への拡大
 - 拠点中学校区における第5・6学年児童・保護者
 - サポートルームに通う児童・生徒
 - 都立高等学校に在籍する生徒 等
- ・中学校教職員へのアンケート調査を実施しての運動・スポーツ機関及び文化・芸術活動とのマッチング
- ・部活動地域移行に向けた生涯学習課やスポーツ協会、スポーツ推進委員との協議会の開催



【その他の関連活動】

- ・放課後子ども教室における運動・スポーツ体験
 - フライングディスク
 - 体操
 - 空手道
- ・放課後子ども教室における中学生のボランティア活動
- ・授業におけるフライングディスク活動 等

